りしに鑑むれば、其の唐に對する態度の依然として變化無かりしは觀取し易き所なりとす、實に此の長慶二年に於ける互市〔一六三〕の有様を見るも、二月絹五萬疋、四月絹七萬疋、十二月又絹八萬疋を以て、回鶻の馬價に充てたりしこと記さる。

此の時代に於て回鶻と吐蕃との間は、尙從來の關係を繼續して不和の情態に在り、長慶元年太和公主の降嫁の事定まるや、吐蕃は之を恨みて、一方には同年七月唐の青塞堡を侵しゝが〔一六四〕、他方には公主を降嫁の途に要せんとしたるが如く、舊唐書廻紇傳に

廻紇奏以一萬騎出北庭、一萬騎出安西、拓吐蕃、以迎太和公主歸國」

と見え、又同傳に豐州刺史李祐の奏を載せて

迎太和公主廻鶻三千、於〔一六五〕卿泉下下營、拓吐蕃

と記し、其の翌長慶二年にも、舊唐書吐蕃傳に

是歲尙綺心兒以兵擊回鶻

と記せり。

崇德可汗に繼ぎし曷薩特勤昭禮可汗以後は、回鶻の混亂時代とも稱すべく、弑逆相繼ぎ、盧駁可汗の殺さるゝに及びては、遂に其の根據地を保つ能はずして諸方に分散するに至れり、今此等三代の間に於ける有様を見るに、昭禮可汗は在位八年の後、太和六年（八三二年）其の下の爲に殺され、從子胡特勤彰信可汗立ちしが、彰信可汗は在位七年にして開成四年（八三九年）其の宰相掘羅勿の爲に殺されしこと、前に述べたるが如し、此の掘羅勿の難に